

【1970年～2007年の約35年間で高速道路が大きく伸びています】



日本地図の太線は供用中の高速道路¹⁾を示しています。左は1970年で右は2007年の状態です。

1970年当時は、東名・名神高速道路と中央自動車道の一部しか供用されておらず、全長約700kmでした。ところが約35年後の2007年では、全長約7500kmで約10倍以上になり、全国に高速道路が張り巡らされています。

そのおかげで、クルマでの移動がずいぶんと便利になり、高速道路のインターチェンジへはほとんどの地域から1時間以内で到達できるようになりました。そのことによって新鮮な農産物が遠距離の生産地から届けることも可能になりました。

⇒「高速道路の延長がのびて私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのでしょうか？」

〔注意事項〕

1)高速道路は、一般的には高速自動車国道と自動車専用道路を指します。上の図はそのうち高速自動車国道を示しています。日本の高速道路は、1963年7月16日に名神高速道路栗東インターチェンジと尼崎インターチェンジが開通したのが始まりです。